

# いしがき教育の日

主催 石垣市教育委員会・いしがき教育の日推進委員会・石垣市学力向上推進

## 子どもたちの学力向上と健全な心の育成を考える

趣旨

～ うふぴいとう たかぴいとうゆ なりたぼーり ～

市民が教育に関心と理解を深め、子どもたちの教育について考える日として定めた「いしがき教育の日」にちなみ、学校、家庭及び地域住民その他関係者が教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚し、子どもたちの学力向上と健全な心の育成について再考する機会とする。



令和 6 年

2月4日

会場:石垣市民会館大ホール

開場:14時

開演:14時30分~16時45分



石垣市教育委員会 教育長  
石垣市学力向上推進委員会 委員長  
崎山 晃

「いしがき教育の日」は、教育に対する市民の関心と理解を深め、本市の将来を担う子どもたちの心豊かで健やかな成長を目指し、家庭、地域、学校及び行政が連携して、教育に関する活動の推進を図ることを目的としており、平成20年に「いしがき教育の日」が制定されてから今日まで、教育に関する活動の推進に取り組んでまいりました。

本日は、教育功労者の皆様への表彰と教育講演があります。表彰式では、いしがき教育の日表彰規程に基づき、これまで本市の教育に顕著な貢献をされた4名の個人と2団体の皆様への表彰を行います。受賞された皆様には、学校教育功労、社会教育功労、文化功労や善行の分野において、長年にわたり市民の模範として、本市の教育界の発展に尽くしていただきました。皆様方の献身的なご努力や不断の努力に、深く敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げます。

本日の教育講演には、海洋冒険家の八幡暁さんをお招きし、「冒険のススメ ～子どもの可能性は無限大～」と題してお話していただきます。

八幡さんは、シーカヤックと素潜りを駆使して、国内外の海を横断する前人未到の人力旅で、世界初となる冒険を数多く記録しています。中でも、高知大学名誉教授の山岡耕作先生が大学院黒潮圏海洋科学研究科在籍時に、共に黒潮流域圏に住む人々の生活や幸せのあり方について、その源流域にあたるフィリピン・ルソン島東岸約1000キロをシーカヤックによる遍路旅を通じて探求された記録が、著書である『黒潮源流シーカヤック遍路旅～八幡暁 かくのたまう～』の中において記されております。この活動はTBS「情熱大陸」や「クレイジージャーニー」でも紹介されました。最近ではNHK「につばん百名山」や「“美ら海”ドローン大航海」へも出演するなど数多くのメディアにも出演しております。また、八幡さんは現在、八重山を生活の拠点とし自然の素晴らしさを紹介する等、様々な活動を展開しております。

今回の講演では、八幡さんの壮大な冒険のエピソードや、冒険から学んだ知識と経験から貴重なお話を聞かせていただけることと思います。

さて、教育の世界においては「令和の日本型教育の推進」と呼ばれる大きな転換期を迎えています。本市においても「不易流行」という考えを念頭に置き、これまでの教育の良さを生かしつつ、日々進化する方法などを積極的に取り入れ、子どもたちに「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」を育んでいきたいと思っております。具体的には、これまで推進してきた「勇気づけの教育」に加え、子ども達が自分の良さや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら自己実現を図ることを目的とした「自己調整を図りながら『自立』にむけた子ども達の育成」の取り組みに力を入れています。

学校・地域・行政がお互いに手を取り合い、学習環境を整えていけば、子ども達の生きる力は確実に伸びていきます。引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、今後も教育を支援する輪が全市民に広がることを願うとともに、本日までご参加の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

## いしがき教育の日 プログラム

司会：石垣市教育委員会教育部 学校教育課  
指導係長 仲盛賢也

- 1 開会
- 2 主催者あいさつ …… 石垣市教育委員会 教育長 崎山 晃
- 3 表彰式
- 4 激励のことば …… 石垣市長 中山 義隆
- 5 受賞者代表のことば …… 長浜 寛 氏
- 6 講師紹介 …… 司会
- 7 教育講演 …… 八幡 暁 氏 「冒険のススメ～子どもの可能性は無限大～」
- 8 謝辞 …… 石垣市教育委員会教育部 学校教育課 課長 上原太郎
- 9 閉会



講演

# 冒険のススめ

## ～子どもの可能性は無限大～

【講師】 **八幡 暁** 氏  
海洋冒険家

大学時代より海に目覚め、八丈島で素潜りを始める。卒業後は各地の漁師の仕事を学びながら国内外を巡る。旅の途中でシーカヤックと出会い、2002年から「海と共に暮らす人々は、どのように生きているのか」をテーマに、オーストラリアから日本までの多島海域を舞台にした人力航海の旅「グレートシーマンプロジェクト」をスタート。フィリピン - 台湾海峡横断（バシー海峡）など世界初となる航海記録を複数持つ。

2005年、身の丈+10センチをサポートする手漕屋素潜店「ちゅらねしあ」を石垣島でオープン。ツアーガイドとしてもチャレンジを続ける。2011年から日本全国の漁村を訪問し漁師に話しを聞く「海遍路」を実施。2016年より「一般社団法人そっか」の共同代表を務めるなど「生きる」をキーワードにした多岐にわたる活動を展開している。

～主な実績～

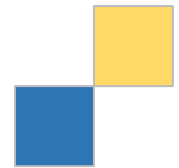
### 【航海実績】

- 2002年 オーストラリアから日本に向けて人力航海開始
- 2003年 インドネシア・パプア州 700 kmをニューギニア人パートナーと共に世界初横断
- 2004年 神奈川県から沖縄 2250 kmをシーカヤック単独無伴走で初漕破
- 2007年 フィリピンから台湾の海峡横断をシーカヤック単独無伴走で初漕破

【主な執筆雑誌】「カヌーライフ:エイ出版社」「Fielder:笠倉出版」「高1My Vision:ベネッセ」等

【主な執筆新聞】「日本経済新聞」「読売新聞」「朝日新聞」「毎日新聞」「共同通信社」

【出演テレビ番組】「情熱大陸:毎日放送」「世界まる見え!:日本テレビ」「美ら海ドローン大航海:NHK」等



## 「いしがき教育の日」ポータルサイトご案内（掲載内容）

### 1 石垣市教育委員会の取組概要（6課 2館 1センター）

- 教育総務課
- 学務課
- 学校教育課
- いきいき学び課
- 文化財課
- 市史編集課
- 石垣市立八重山博物館
- 石垣市給食センター
- 石垣市立図書館

### 2 学力向上推進校の取り組み

- 石垣市立明石小学校 … 主体的に学びに向かう児童の育成  
～算数科における自由進度的学習の実践を通して～
- 石垣市立伊原間中学校 … 主体的に学習に取り組み、学び合う生徒の育成  
～1人1台のタブレット、ICT機器を効果的に活用する取組～



### 3 石垣市教育委員会 研究指定校報告

- 石垣市立石垣小学校 … 自立した学習者の育成 ～自己調整力を高める取組を通して～
- 石垣市立真喜良小学校 … 自ら課題を解決していく「自律した学習者」の育成をめざして
- 石垣市立名蔵小中学校 … 他者と協働し、目標に向かって挑戦する児童生徒の育成  
～教育活動全体を通じた効果的なICT機器の活用～

# 教育功労者表彰 受賞者

## 表彰規程第2条(家庭及び地域関係者の推薦)

被表彰者	推薦者	功績概要
さかなか けんさく 坂中 健作	八島小学校長	長年にわたり八島小学校のPTA活動に携わり令和2年度及び4年度、5年度はPTA会長を務めている。コロナ下でも児童の安全のために立哨や車両による広報活動を継続し、また、書面やSNSなど臨機応変にPTA活動が止まることのないよう活動してきた。地域と学校・児童をつなぐパイプ役として活躍している。
りゅうせいぞうえん 株式会社 龍生造園 いらぶ ひでゆき 代表者 伊良部 秀之	八島小学校長	八島小学校の環境整備や学校行事等にボランティアで長年にわたり尽力している。特に、運動会前には毎年、人員や重機を出し、樹木の選定やグラウンドの整備に協力いただいている。創立30周年記念事業の取組においても、記念事業委員長を担い、海上パレードでは船の先導を務め、また、式典前には正門などの環境美化作業を行った。
ながはま ひろし 長浜 寛	大浜公民館長	大浜公民館の各行事や、旧盆明けのイタツキバラの獅子舞等の地謡を長年にわたり尽力している。30年以上前には、公民館の横笛をする人が少なかった為、一人で横笛を担当するなど地域行事を支えてきた。現在も、子ども獅子などで横笛の指導を行い、伝統文化の伝承に努めながらも現役で活躍している。
ないとう ひろむ 内藤 祐生	吉原小学校長	吉原小学校で平成24年から令和4年まで、学校警備員として毎日の学校警備業務をする傍ら、毎朝の正門周辺道路の清掃、校内の清掃、学校運動場の草刈り作業により、学校の環境を整備し、子どもたちや地域住民に安全で快適な環境を提供してきた。
ながみね まさはる 長嶺 正治	川原小学校長	川原小学校の特色ある教育活動「プロジェクトK(会社組織での農業生産販売活動)」に、長年にわたり農産物の栽培に必要な土や堆肥等を提供し、学校教育活動に貢献してきた。また、川原小学校PTA会長や地域の消防団長として、地域の教育活動や安全安心な生活の向上に貢献してきた。

## 表彰規程第5条(その他の推薦)

被表彰者	推薦者	功績概要
いしがき むら 石垣やいま村	文化財課長	石垣やいま村は、県の傷病鳥獣救護事業によるボランティア施設として、カムリワシの救護活動を行っている。令和4年、逼迫したりハビリケージの状況をいち早く問題視し、市内外にクラウドファンディングを呼びかけ、新たなケージを完成させた。これにより、カムリワシの収容個体数が大幅に改善され救護体制が充実した。また、飼育員が長年にわたり細心の注意を払いながら飼養・リハビリを継続しており、野生復帰の向上に大きく貢献している。石垣やいま村の活動は、本市の天然記念物保護行政に多大な貢献をしている。

本日は、「いしがき教育の日」全体会及び教育講演会にご参加頂きありがとうございました。今後の本事業の内容充実のために、下記URLまたはQRコードからアンケートへのご協力をお願いいたします。

<https://forms.office.com/r/s7WtLQy4Ez>

